令和4年度　諏訪市総合教育会議

日時　令和4年9月26日（月）　午前9時00分
会場　諏訪市役所5階　大会議室

【次　　第】

１．開　　会

２．あいさつ

・市　　長

・教　育　長

３．議　題

・時代の変化に即応した学校施設のあり方と諏訪市教育大綱の策定について

(1) ゆめスクールプラン　分離型小中一貫教育開始に向けた準備について（報告）

(2) 県内先進学校（軽井沢風越学園・御代田中学校・佐久穂小・中学校）視察結果について（報告）

(3) 新しい学びと、諏訪市の学校施設がどうあるべきか（意見交換）

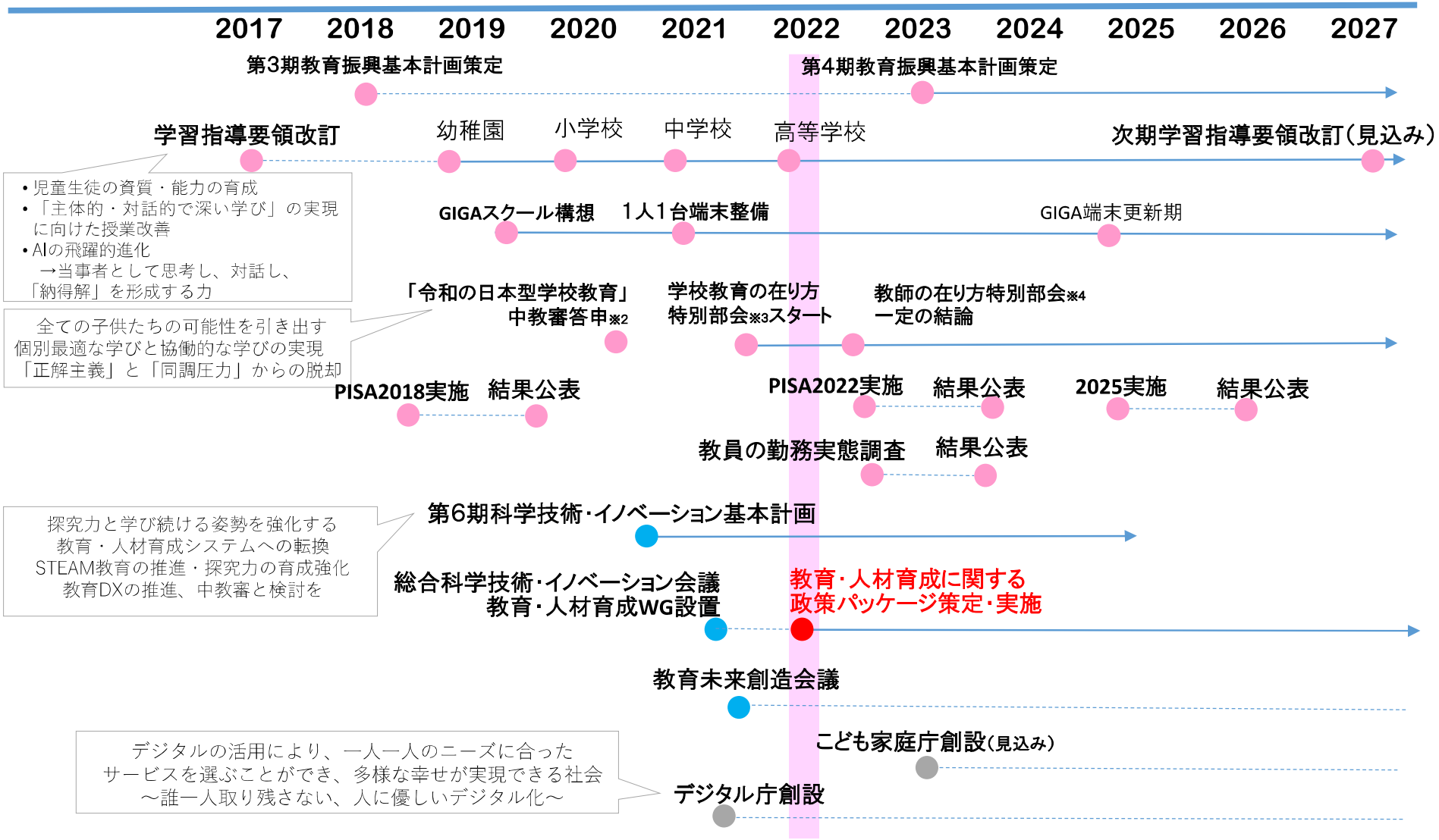
(4) 教育大綱の策定について（提案）

その他

４．閉　　会

０．政策パッケージの位置付け

ここ最近の教育政策と本政策パッケージの関係性



＜総合科学技術・イノベーション会議　教育・人材育成WGにおける議論＞

【2017改訂学習指導要領】
【2021令和の日本型学校教育の答申】を実現するための環境整備に向けた
省庁横断的な具体的方策を検討

次期学習指導要領改訂を見据え、
デジタルを駆使した教育DX等の実現に向けた
省庁横断的な具体的方策を検討

（出典）※1　新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について（答申）（第213号）（平成31年1月25日）
※2「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）（中教審第228号）（令和3年1月26日）
※3　中央教育審議会　個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会
※4　中央教育審議会「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会基本問題小委員会

「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告【概要】

１人１台端末環境のもと、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、新しい時代の学校施設の在り方を議論

第１章　新しい時代の学びの姿

（１）社会情勢の変化

⇒社会の在り方が劇的に変わる「Society 5.0時代」の到来
⇒新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」

（２）「令和の日本型学校教育」の姿

⇒中央教育審議会において、新しい時代の初等中等教育の在り方を検討
⇒教育再生実行会議において、ポストコロナ期における新たな学びの在り方を検討

学校のICT環境が整備され、１人１台端末環境のもと、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

（３）「令和の日本型学校教育」の構築に向けた改革の方向性

- 新学習指導要領の着実な実施
- 学校における働き方改革の推進
- GIGAスクール構想、ICTの活用
- 少人数による指導体制の整備
- 9年間を見通した義務教育の在り方
- 地域社会や関係機関等との連携・協働
- 多様な教育的ニーズのある児童生徒への対応

第２章　学校施設の課題

（１）新しい時代の学びへの対応の必要性

●ポストコロナ時代における学校施設という実空間の役割
⇒児童生徒にとって安全・安心な居場所を提供するという福祉的機能、社会性・人間性を育む社会的機能を有するなどの学校の持つ役割・在り方を再認識
⇒ポストコロナ時代において、子供たちがともに集い、学び、遊び、生活する学校施設という実空間の価値を捉え直す必要

●学びのスタイルの変容への対応
⇒ICTの活用などにより、学級単位で一つの空間で一斉に黒板を向いて授業を受けるスタイルだけでなく、学びのスタイルが多様に変容していく可能性が拡大
⇒空間・時間を超えて、様々な学習リソースに非同期にアクセスして学ぶことができるなど「非同期・分散」した学びのスタイルが広がり、これまでの「同期・集合」した学びのスタイルと往還する場面が展開されていく可能性も拡大

（２）～（４）学校施設等における現状と課題

- これまでの学校施設の計画、教室面積、多目的スペース、空調設備の整備状況 等
- 防災・減災、国土強靱化、耐震対策・老朽化した施設の実態、維持管理 等
- 国・地方の財政状況、適正規模・適正配置等の実態、複合化・集約化の状況 等

第３章　新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方

新しい時代の学びを実現する学校施設の姿（ビジョン）

Schools for the Future　「未来思考」で実空間の価値を捉え直し、学校施設全体を学びの場として創造する

「未来思考」の視点

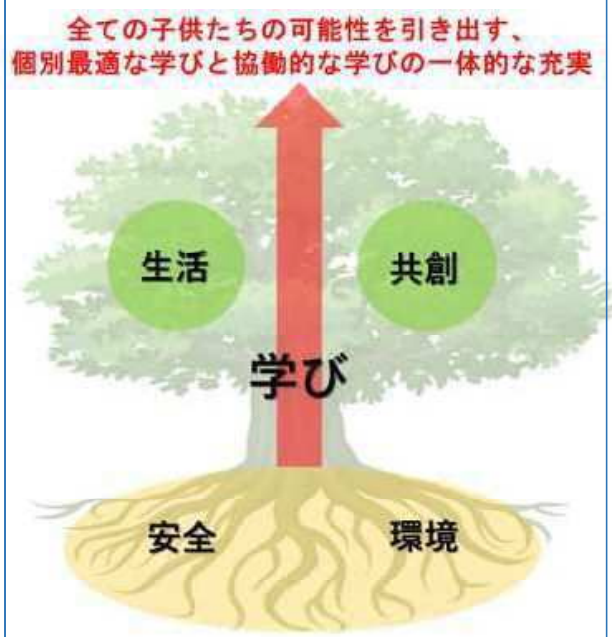
① 学校は、教室と廊下それ以外の諸室で構成されているものという**固定観念から脱し、学校施設全体を学びの場として捉え直す。**廊下も、階段も、体育館も、校庭も、あらゆる空間が学びの場であり、教育の場、表現する場、心を育む場になる。

② 教室環境について、**単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な活動に柔軟に対応**していく視点（柔軟性）をもつ。

③ 紙と黒板中心の学びから、１人１台端末を文房具として活用し多様な学びが展開されていくように、学校施設も、**画一的・固定的な姿から脱し、時代の変化、社会的な課題に対応**していく視点（可変性）をもつ。

④ どのような学びを実現したいか、そのためにどんな学び舎を創るか、それをどう生かすか、**関係者が、新しい時代の学び舎づくりのビジョン・目標を共有**する。

新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方（５つの姿の方向性）



新しい時代の学び舎として目指していく姿

◆　◆　◆

「未来思考」をもった上で、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向けて、**これからの新しい時代の学び舎として目指していく姿**を示す。

新しい時代の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮するものとして、その中心となる「幹」に**『学び』**を据え、その学びを豊かにしていく「枝」として**『生活』『共創』**の空間を実現する。

また、新しい時代の学び舎の土台として着実に整備を推進していく「根」として**『安全』『環境』**の確保を実現する。

【新しい時代の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮】

学び

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間を実現

⇒１人１台端末環境等に対応した机を配置し、多様な学習を展開できる教室環境の整備

⇒個別学習や少人数学習など柔軟に対応できる多目的スペース、学習支援、教育相談等の環境整備

⇒教職員のコミュニケーション・リフレッシュの場（ラウンジ）、映像編集空間（スタジオ）の整備

（教室・教室周辺の空間の改善・充実に関する創意工夫の例）

1人1台端末環境等に対応したゆとりのある教室の整備

多目的スペースの活用による多様な学習活動への柔軟な対応

ロッカースペース等の配置の工夫等による教室空間の有効活用

生活

新しい生活様式を踏まえ、健やかな学習・生活空間を実現

⇒居場所となる温かみのあるリビング空間（小教室・コーナー、室内への木材利用）

⇒空調設備の整備、トイレの洋式化・乾式化、手洗い設備の非接触化

共創

地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間を実現

⇒地域の人たちと連携・協働していく活動・交流拠点として「共創空間」を創出

⇒地域の実情等に応じた他の公共施設等との複合化・共用化等

【新しい時代の学び舎の土台として着実に整備を推進】

安全

子供たちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境を実現

⇒老朽化対策等により、安全・安心な教育環境を確保

⇒避難所として自家発電・情報通信設備、バリアフリー、水害対策等の防災機能を強化

環境

脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境を実現

⇒屋根や外壁の高断熱化や高効率照明などの省エネルギー化、太陽光発電設備の導入の促進により、ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）を推進

⇒環境や地域との共生の観点から学校における木材利用（木造化、室内利用）を推進

新しい時代の学びを実現する空間イメージ例（未来思考の視点を含む）

これからの学校施設は、新しい時代の学びを実現していくことを基本とし、それらを具体化する施設環境を創造していく

学び

単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な学びに対応できるよう、創造的な空間に転換していく姿

学び

学校図書館とコンピュータ教室と組み合わせて読書・学習・情報のセンターとなる「ラーニング・コモンズ」としていく姿

学び

教室と連続する空間も活用し、高機能のコンピュータ室を専門的で高度な学びを誘発する「デザインラボ」としていく姿

学び

映像編集やオンライン会議のためスタジオ、情報交換や休息ができるラウンジなど、円滑に業務を行える執務空間としていく姿

生活

木材を活用し温かみのあるリビングのような空間の中で、壁面の工夫やベンチ等を配置し、豊かな学び・生活の場としていく姿

共創

地域コミュニティの拠点として、地域や社会の人たちと連携・協働し、ともに創造的な活動が展開できる共創空間としていく姿

安全

長く使い続けることができるように安全性を確保し、子供たちの学び・生活の場、地域のコミュニティの拠点としていく姿

環境

省エネルギー化や再生可能エネルギーを導入等を積極的に進め、環境教育での活用や地域の先導的役割を果たしていく姿

第４章　学校設置者における推進方策

今後も増加する膨大な老朽化施設の現状等を踏まえ、教育環境向上と老朽化対策を一体的に図る長寿命化改修等を積極的に推進していくことをはじめとした具体的な方策を提言

（１）長寿命化改修を通じた、新しい時代の学びを実現する教育環境向上と老朽化対策の一体的な推進

- 安全・安心な教育環境を確保しつつ、新しい時代の学びを実現していくため、長寿命化改修等を通じ、教育環境向上と老朽化対策の一体的な整備を積極的に推進

（２）首長部局と協働した、中長期的視点からの計画的・効率的な整備の推進

- 教育委員会と、まちづくり部局や財政部局、環境部局、防災部局等の首長部局との横断的な検討体制を構築
- 中長期的な将来推計を踏まえ、計画的・効率的な施設整備を推進（将来変化に柔軟に対応できる施設、将来的な他用途への転用、複合化・共用化等）

（3）多様な整備手法等の活用と、施設整備と維持管理の着実な推進

- PPP/PFI手法を含め、民間活力を活用した施設整備・維持管理を積極的に推進
- 計画的に施設の点検・修繕等を行い、不具合を未然に防止する「予防保全」型の管理へと転換

（４）学校関係者等の参画による豊かな学びの環境整備の推進

- 学校施設の計画・設計において、学校設置者と設計者だけでなく、新しい学びの担い手である学校の教職員など関係者が参画した施設づくりを促進、プロポーザル方式の導入推進等

第５章　国における推進方策

新しい時代の学びを実現する学校施設の整備を着実に進めるための具体的な方策を提言

（１）新しい時代の学びを実現する学校施設整備の方向性（目標水準）の提示

- 2020年代を通じて目指す、新しい時代の学びを実現する学校施設整備の方向性を目標水準として整理

（２）教育環境向上と老朽化対策の一体的整備の事例収集・分析

- 長寿命化改修等を通じ、教育環境向上と老朽化対策を一体的に整備している好事例について、ボトルネックとなる課題の解決策とあわせて積極的に周知

（３）学校施設整備のための財政支援制度の見直し・充実

- 安定的・継続的な予算確保
- 国庫補助単価を含めた財政支援制度の更なる見直し・充実

（４）新しい時代の学びを実現する学校施設整備の技術的支援の充実

- 学校施設整備・活用のためのプラットフォームを構築（事例・ノウハウの発信、専門家派遣等）
- 先導的モデル研究等を通じた新たな学校施設モデルの提示

（５）学校施設整備指針の改訂

（６）普及啓発、適切なフォローアップと更なる調査研究等の実施

子供たちにとって「明日また行きたい学校」となるために、そこに集う人々にとっても「生き生きと輝く学校」となるために

Council
for
Science,
Technology
and
Innovation

Society 5.0の実現に向けた
教育・人材育成に関する政策パッケージ

2022年6月2日

総合科学技術・イノベーション会議
Council for Science, Technology and Innovation

2．教育・人材育成システムの転換の方向性

統制のとれた組織のもとで機械・設備に合わせて標準化される工業化社会においては、同質性・均質性を備えた一律一様の教育・人材育成が求められ、一斉授業・平等主義のもとに世界トップレベルの教育・人材育成システムが日本の大きな経済成長を支えてきた。しかし、人口減少・少子化の深刻化とともに、目の前にある「新たな価値創造」「イノベーション創出」「一人ひとりの多様な幸せ」を目指すSociety 5.0時代、DX、そしてアフターコロナという大きな時代の転換期にある今、すべての子供の可能性を最大限引き出す教育・人材育成システムの抜本的な転換が急務。

社会

社会を支える 教育・人材育成システム

これまで

工業化社会　大量生産・大量消費

巨大化する都市環境　指数関数的な人口増

経済成長

新卒一括採用・年功序列

同質性・均質性
一律一様の教育・人材育成

一斉授業　形式的平等主義

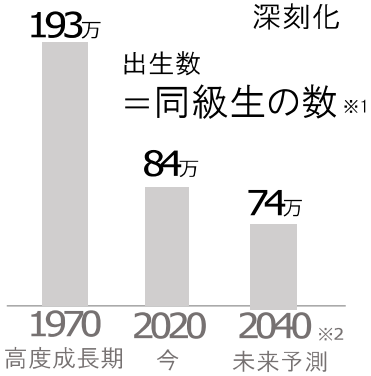
みんな一緒に　みんな同じペースで　みんな同じことを

測りやすい力重視
限られた時間で自らの記憶や思考だけを頼りに素早く正確に解く力を評価

自前主義
学校種、学校、学年、学級、教科などの縦割り構造に基づく教育の提供

社会的・文化的バイアス
学びや進路の選択を制約するバイアスの存在（女子の文理選択、直線的な進学だけが選択肢）

人口減少・少子化の深刻化



世界トップレベルの教育システム

~~同調圧力~~
~~正解主義~~

価値創造やイノベーション創出の最大の敵

一人一台端末
オンライン環境の整備
コロナで進んだデジタル化

今、これから

新たな価値創造　イノベーション

SDGs　Society 5.0　DX

一人ひとりの多様な幸せ well-being

地球規模課題　多様性　安全・安心

AI　人材の流動化　総合知

多様性を重視した教育・人材育成

個別最適な学び　協働的な学び

それぞれのペースで自分の学びを　対話を通じた「納得解」の形成

探究力重視
自ら学びを調整し、社会に生きる学びや試行錯誤しながら、自ら課題を設定し課題に立ち向かう「探究力」を評価

社会とシームレスな協働体制
社会や専門的な力を入れて、一人ひとりの特性を重視して、その力をさらに伸ばす体制

子供の主体性
大人の成功体験や経験にとらわれず、子供の好奇心や個人の興味・関心に応じた学びや進路選択の実現

Society 5.0の実現のために、学校教育には、次代を切り拓くイノベーションの源泉である創造性と「多様性」「公正や個人の尊厳」「多様な幸せ（well-being）」の価値が両立する「持続可能な社会の創り手」を育むことが求められている

（出典）※1　令和2年（2020）人口動態統計　※2　国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」における出生中位・死亡中位仮定による推計値。

資料１

ゆめスクールプラン
分離型小中一貫教育開始に向けた
準備について

資料

令和４年度　諏訪市　未来創造ゆめスクールプラン　小中一貫教育プロジェクト推進委員会タイムスケジュール

諏訪市教育委員会

	前期						後期					
	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月

全体推進

◎令和５年度　各中学校区における小中一貫教育の教育目標、目指す児童生徒像（教師像）及び特色ある教育活動等の策定

◎分離型小中一貫教育学校の方向、教育内容等を記載したリーフレット作成（市内全戸配布・周知）
※広報12月号に折込

◦分離型小中一貫教育の理念及び東部地区第１期の評価、諏訪市の今後の再編推進について
◦各中学校区から提案された特色ある小中一貫教育の取り組みの具体的内容

リーフレットに反映

◦分科会、中学校区で検討された内容を、随時取り入れ実践化

学力・資質向上　分科会

◎小学校高学年への教科担任制の導入
◎小中の学習の系統性を大切にした、「ジョイントカリキュラム」の実践
◎小中のつながりを大切にした「ふるさと学習」「相手意識に立つものづくり科」の実践とカリキュラムづくり
◎小中の評価方法の検討（通知表も含め）　◎「伝えあう力」の育成の実践に向けて
◎9年間を通した「授業を通しての学び方」「家庭学習」の習慣形成のあり方

◦可能な限り、各中学校区において、プロトタイプを提案し、実践を通して評価、改善

第１回　推進委員会
・分科会（5月）

◦分科会（中学校区単位も含む）

第２回　推進委員会
・分科会（9月）

適時開催

第３回　推進委員会
・分科会（2月）

交流　分科会

◎異年齢…合同行事、奉仕活動、防災訓練、文化祭、運動会、音楽会、読書活動など
◎児童会・生徒会…共同運営での行事の設定　資源物回収、福祉活動など
◎課外活動…部活動（含部活見学）、地域の文化活動、アフタースクールなど
◎小中の連続性を生かした中での児童・生徒理解…ケース会議・チーム支援など
◎特別支援教育…ケース会議、支援会議・チーム支援など

◦東部Ⅰ、Ⅱ、西部、南部の４中学校区の括りで検討、策定し実施
◦前後期とも可能な交流の推進。評価方法の検討
◦地域、CSとの連携

☆共通検討事項　　ICTを活用した授業や交流等の実践的研究
・タブレットPC、電子黒板、チームス等のソフトウェアを使った実践、効果的な活用に向けた研修等

「学習内容の系統性」と「学び方の連続性」から、学習活動を小・中学校の先生が一緒に考えています。」

◎「なぜ？」「どうして？」という児童生徒の問いから出発した展開にしよう。
◎“伝え合う”場面が必ずあるように、小グループの学習を工夫しよう。

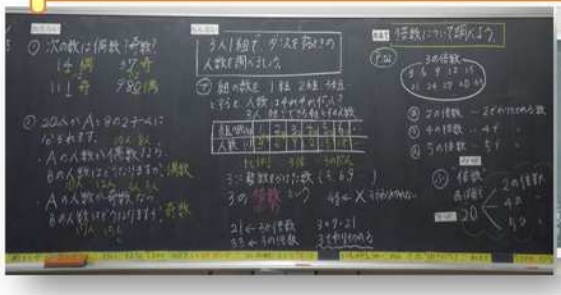
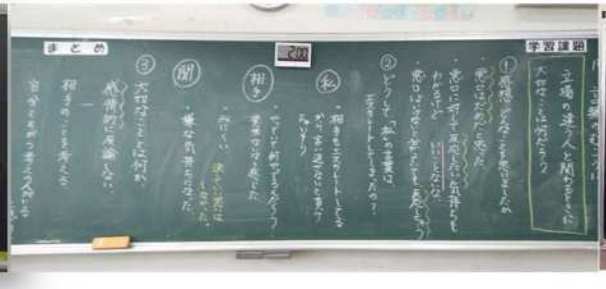
小　学　校　　中　学　校

低学年 ➡ 中学年 ➡ 高学年 ➡ 中１ ➡ 中２ ➡ 中３

【児童は…】
○自分の考えを言いやすいです。　○話を聞いてもらえるので嬉しいです。
○クラス全体の前で発表するよりも恥ずかしくないです。
○分からないことを，分からないと言いやすいです。

【生徒は…】
○グループで話し合いながら問題を解くときに、自分の考えを言ったり、考えつかないような友達の意見は、参考になるのでうれしいです。
○授業でわからないときは、自分なりに考えて、周りの意見を聞いてお互いに納得する答えが出るように話し合って取り組むことができました。

◎児童生徒にとって、わかりやすい板書にしよう。

［交流　分科会］

児童生徒が主体性を発揮しながら、日々の学びを活かした多様な交流をします。

“小学生は、手づくり味噌づくりを、クラス全員で挑戦します。完成したお味噌を食べるのが待ち遠しい。”

“自分たちが作った味噌をみんなで一緒に味わいたい！
小・中　一貫教育給食献立の日　小学生がメッセージを届ける”

小学校の６年生が、5年生の時に総合的な学習の時間等で仕込み、今日まで熟成させたお味噌を活用した給食について、中学生のお兄さん、お姉さんにぜひお話したいと、お昼の放送にテレビ出演して、声のメッセージを届けました。〔中学校の放送室にて〕

“中学生に食べて欲しいと、心を込めて１人１人が手づくり味噌に付けるメッセージを書きました。”

“小中一貫献立についてのメッセージを届けた６年生。”

“中学生は、「おいしいお味噌をつくるには？」と課題を持ち、科学的な眼で探究しています。「美味しさの素は？」”

“小学校６年生のメッセージ”

６年みそ新聞係です。今日のテストおつかれさまでした。中学校に行くと、テストをしている姿を見て、さすが中学生だと思いました。私たちは５年生の時に、５年生の時に、みそを作りました。そして今日の給食で、“おらほうの味噌汁”と“さばの味噌焼き”を出してもらいました。中学生のみなさんと先生方にも味わって食べてもらいたいです。給食室前には、僕たちがつくったみそ新聞が貼ってあります。みそ新聞には、今日の給食の“おらほうの味噌汁”のことや、みその中に入っている菌のことなどをまとめてあります。下には４コマ漫画もあります。ぜひ読んでください。

“小学生の頑張りすごい！お味噌汁美味しかった”

「自分たちも(3 年生)もやってきたから良く分かる。小学生の頑張りすごい。」

「6 年生の発表すごく上手だった。来てくれて嬉しかった。」

〔中学生の感想〕

資料２

県内先進学校視察報告

令和４年９月２６日　令和４年度　諏訪市総合教育会議

諏訪市教育委員会事務局教育総務課

県内先進学校視察の目的

- 現在、諏訪市では**「未来創造ゆめスクールプラン」**を推進しており、**令和５年度からの小中一貫教育を開始**することを目指している。
- 小中一貫教育を実施するために、**「小中をつなぐ教育課程の編成」**や**「学校施設整備」**のあり方などの研究を進めている。
- 以上のことから、**県内の特色ある教育活動や施設**などの研修視察を通じて、今後の「未来創造ゆめスクールプラン」の一層の推進を目的として、当研修を実施する。

研修視察の概要

- 実施期日
  令和４年９月１２日（月）
- 参加者
  市教育委員会事務局職員６名
  市立小中学校教職員１１名
- 視察場所
  （私）軽井沢風越学園
  ➡幼稚園と義務教育学校からなる幼小中混在校
  （公）御代田町立御代田中学校
  （公）佐久穂町立佐久穂小学校・佐久穂中学校
  ➡施設一体型小中一貫教育校

軽井沢風越学園

学校概要

- 教育理念

  「すべての子どもの自由に生きるための力と、自由を相互に承認する感度をはぐくむ」

- 設置者

  学校法人軽井沢風越学園

- 在籍数

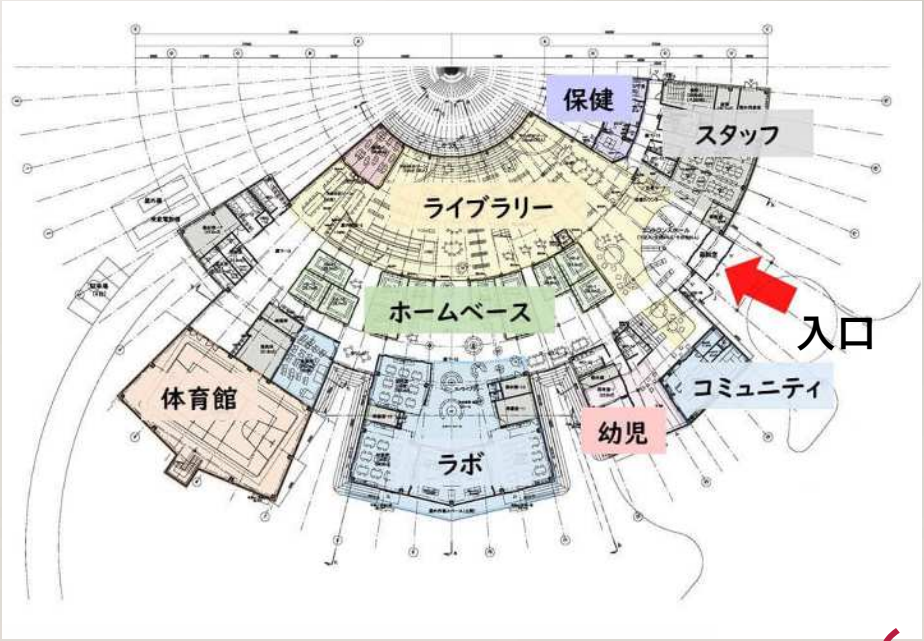
  幼稚園：６３名　義務教育学校２２８名

- 開校年度

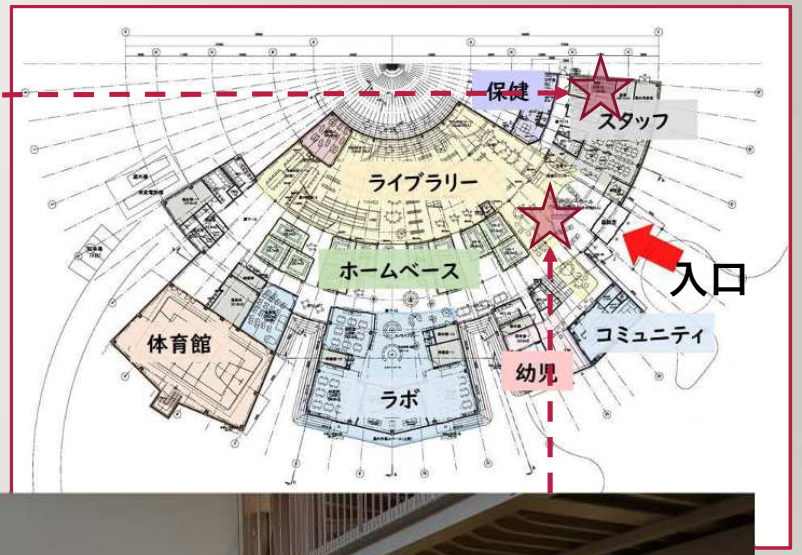
  令和２年４月

施設概要

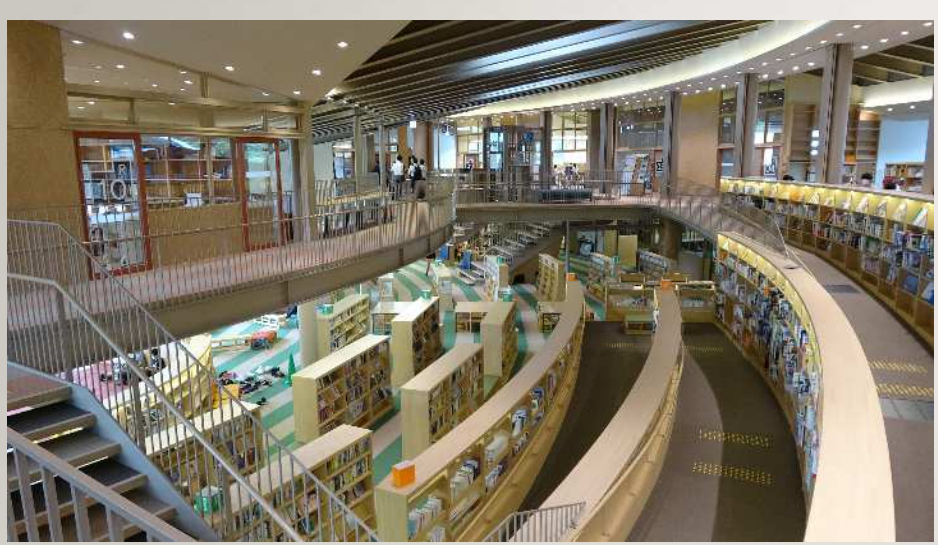
構造	基礎：鉄筋コンクリート造　骨組み：鉄骨造
敷地面積	69,742.68㎡
建築面積	5,322.74㎡
延床面積	6,771.52㎡（1階 4,764.82㎡　2階 2,006.70㎡）
階数	地上2階建



壁を設けていない職員室



浅間山からの軸線を中心に
扇形に平面構成された校舎



異年齢の子ども達が集まり、自ら探求し、学びを深めていくための空間として、校舎全体がライブラリーとして形成され、常に本に触れることができるつくり

本は、ラボラトリーや理科室、木工室などのゾーニングに応じて並べており、蔵書冊数は約３万冊

風越学園で大切にしている「つくる」ということを実現するために、ラボラトリーを中心に有機的につながる空間

ライブラリーの中に小さな演奏スペースを設けるなど多様な用途での活用

幅広い年齢層に配慮した階段

浅間山を望む自然豊かな敷地に建つ校舎

現在は、開校当時生い茂っていた芝をなくして「どろんこ」ができるような環境に

教育課程の概要

カリキュラムは子どもの経験の総体

　軽井沢風越学園は幼稚園と義務教育学校からなる12年間の幼小中混在校です。
　軽井沢風越学園では、3歳から15歳までの12年間の連続性を大切にしたカリキュラムを目指しています。 実体験と抽象、探索と探究、あそびと学び…。それらを行き来しながら、一人ひとりの「自分をつくる」と「自分でつくる」時間を積み重ねます。

教育課程の概要

１２年つづく探求の学び

探究の学びは、「～したい」、気になってしかたがないというような自分事のテーマ・問い、もの・こと・ひとに出会い、子ども自身が深め、切り拓いていく学びです。12年間というたっぷり、ゆったりとした時間、じっくり取り組める環境、他者とまざり合って、刺激し合う関係の中で、一人ひとりの「～したい」が生まれていきます。

風越学園の視察から見えてくるもの

（参加者の声）

- 今作ろうとしている分離型小中一貫教育の「接合カリキュラム」や連携しての活動を通して、いかに**「子どもの『～したい』願いを実現し探究心の伸長を図っていくか」**を考えたい。
- 同年齢の比較は子どもを苦しめる。**異年齢で学ぶ大切さ**を感じた。
- 授業を見学して、**学び方を学んでいる**と感じた。また、全職員がそれをしっかり意識していると感じた。
- 強制、強要、誘導をせず、**提案という形**で、子どもたちと接する姿勢は、私たちにもできることだと思った。

風越学園の視察から見えてくるもの

（参加者の声）

- 先生方の**学びへの姿勢**が徹底されていました。見守る、声をかける、働きかける、すべてが思いつきではなく意図的であり、子ども達の学びの道筋がすべて頭に入っている徹底ぶりに感服した。
- **「環境が人を育てる」**という体験をした。
- 授業を含め、児童生徒の学校生活至る部分で、「教師主導」でなく**児童生徒のペースで学びとっていく**姿が印象的であった。
- 従来の「学校・校舎」という既存の概念を良い意味で破壊し、文科省が示した**「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方」**にある方向性や空間イメージ例を取り入れた、まさに「先進」学校であった。

御代田町立御代田中学校

学校概要

- 学校教育目標

  「美しく　雄大な　浅間山に学ぶ」

- 設置者

  御代田町

- 在籍数

  １学年１３６名

  ２学年１２２名

  ３学年１４３名　　計４０１名

- 建設年度

  平成２３年４月

「美しく　雄大な　浅間山に学ぶ」

北に浅間山、南に八ヶ岳、西にアルプスの連山、そして佐久平を一望に収める雪窓の地に、近代建築の粋を集め、町の発展シンボルとして、鉄筋三階建ての御代田中学校を平成23年度に開校

教育目標にもある「浅間山に学ぶ」を実現するための施設

どこからでも浅間山を望める配置

大きな窓による開放的な空間づくり

居場所づくりとして少人数で過ごせる相談室を４つ設けている

昇降口を通らずに相談室に直接登校できるような配慮

御代田中学校の視察から見えてくるもの

（参加者の声）

- **「個別最適な学習」実現のための空間づくり**がされていて素晴らしかった。
- **窓が大きい、天井が高い、教室が広い**　これからのWITHコロナの時代には大切な要素だと感じた。
- **先生方の声を聞いて造られた校舎**であるということがよくわかった。
- 自由度の高いスペース、空間、部屋が多く、教師のみならず、生徒たちから**新しい発想で活動が生まれたり、広がったりする**だろうなと感じた。
- **生徒にストレスのない機能的な構造、個に対応できる構造**が印象的であった。
- 木材をふんだんに使用した、**ぬくもりのある校舎**、浅間山を見渡すロケーション空間(土地や建物)に**ゆとりを持った設計等**に目を惹かれる。

佐久穂町立佐久穂小学校・佐久穂中学校

開校までの経過

- 平成１９年　２月　小中学校・保育所あり方検討委員会の設置
- 平成２１年１２月　小中学校のあり方についての町の方向性を提示
- 平成２２年　１月　保護者懇談会、地区懇談会、土地所有者説明会の開催
  ３月　町の方向性を議会で承認
  ９月　統合小中学校建設検討委員の設置
- 平成２３年　３月　用地取得、設計業者の決定
- 平成２４年　６月　本体工事着工
- 平成２７年　４月　佐久穂小学校・佐久穂中学校開校

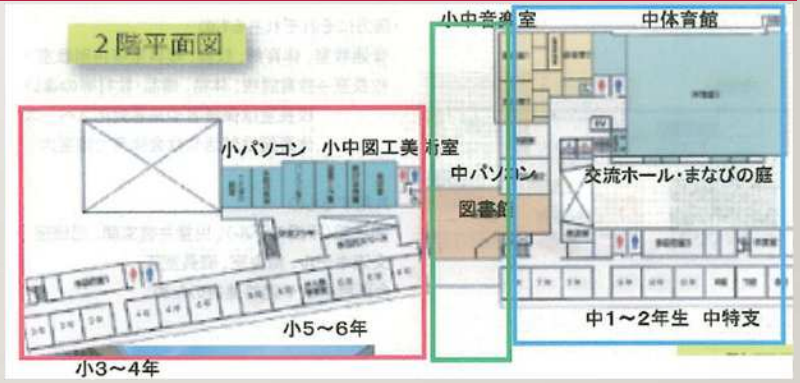
学校概要

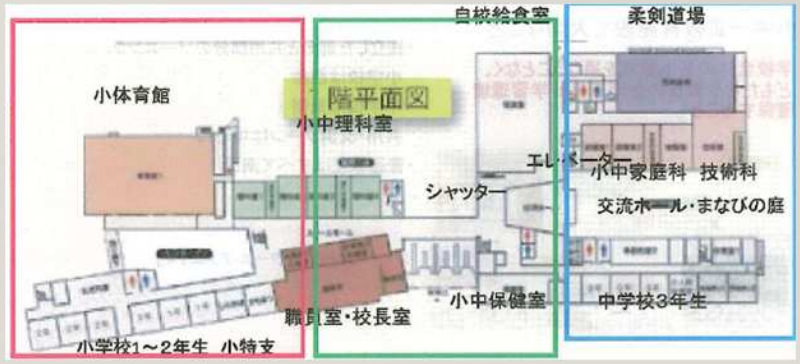
- 法令上の位置づけ
  施設一体型小中一貫教育校
- 設置者
  佐久穂町
- 在籍数
  小学校４７６名　中学校２５９名
- 開校年度
  平成２７年４月
- その他
  県立小諸養護学校ゆめゆり分教室を併設

施設概要

- 小中一貫教育施設で大切なこと

学校全体の基本機能を損なうことなく、子どもたちや教員の生活環境や学習環境を確保すること





- ✓ 小学校は西側、中学校は東側
- ✓ 共用・交流ゾーンは中心に配置
- ✓ 普通教室はすべて南面

・両方にそれぞれあるもの

普通教室、体育館、校庭、理科室等特別教室

校長室→教育課程、体格、備品・教材等の違い

校長室は保護者や来客対応スペース

体育館は部活や社会体育で頻度大

・共用するもの

図書館（平湯モデル）、児童生徒玄関、相談室

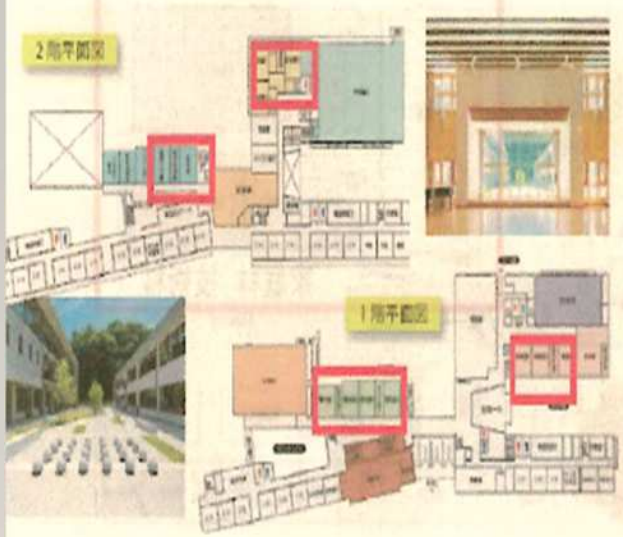
交流ホール、給食室、職員室等

（合同職員会や連絡連携のため）

小学校・中学校の教職員が同じ空間を共有できる職員室

小学生・中学生が利用できるゆとりのある図書室

特別教室のゾーニング



理科室(2+2)
調理室(1+1)
音楽室(3)
図工室(1)+美術室(1)
保健室(小・中)+指導室等

小中別に複数教室が使用可能
小中で合同の活動が可能
小中学生が日常的に移動時に出会う
ダブル保健室は効果大

小・中学生の学びの場として

～学級数が増えても　主体的・対話的・深い学びのために～

・グループ別・習熟度別学習に対応するための多目的室や
　オープンスペースや複数設置の特別教室

・個別の学習に対応するための相談室や個別学習室

・学年・学級単位の活動に対応するための空間（合唱など）
　→小中の共用スペース

・各教室のICT機器の充実（プロジェクター、パソコン、Wi-Fi）

特色のある教育

あり方検討委員会の提言書「わが町に根付く特色ある教育」

①学力の向上　②心を豊かにする教育　③地域を生かす教育

◆小中一貫教育

◆英語教育

◆キャリア教育（ふるさと学習）

一つ目の柱

・小中一貫教育

キーワード
～すべての職員で
　　すべての子どもを育てる～

小中合同音楽集会（場所を分散して）

小中の職員全員で、小中全員の子どもを育てる

佐久穂小中学校が目指す施設一体型小中一貫教育

（1）9年間を見通した学習指導（9年間の小中一貫教育カリキュラムの作成）
1～4年：基礎充実期　5～7年：活用期　8・9年：発展期
～計4回のクラス編成（小1就学時、小4進級時、7年（中1）進学時、8年（中2）進級時）～

（2）行事・日常の活動を通して小中学生が交流　～支える職員意識～全戸数配布「佐久穂教育」
資料　佐久穂教育

小中合同集会、小中合同避難訓練、文化祭、音楽会等の行事
教室移動、登下校、休み時間、縦割り清掃（無言清掃）、合同児童会生徒会活動など

（3）小5から教科担任制へ移行　町費の中学校教員が指導（算数、英語、体育、理科）
～小から中へのスムーズな移行（中一ギャップの軽減と専門性を活かす）～

（4）各種会議等で意思の疎通を図り、連携しながら、小学校・中学校それぞれの
教育課程の良さを残し、それぞれの文化・特徴・節目を大切にする　～義務教育学校にせず～

（5）　佐久穂教育のブランド化・・・小中一貫教育研修事業（小中学校長に研修補助費を交付）
～佐久穂に赴任したら一貫教育を学べる　～

（6）小中学校のベクトルを揃える　→

本年度　佐久穂小中学校が目指す小中一貫教育

（6）小中学校のベクトルを揃える

- 児童生徒の学びを揃える
  佐久穂の9年生はこうあったらよいということを共通理解し、小中の学び方を揃える。
  最低限・・・例えば、授業をよくする3観点の実践、少人数学習、グループ学習、ペア学習の効果的な活用、ICTの活用等

- つけたい力を揃える
  佐久穂の9年生の学力の実態に対して、各学年に共通している課題はないか。→切り口
  合同教務主任・研究主任会

- 児童理解・生徒理解で揃える
  佐久穂小中が大切にしている、特別支援教育　その子の特性を理解し、強みを自覚させた学び
  そのために、小中学校でNIMU（教研式　認知能力検査）を実施し、客観的に児童生徒理解をし、
  特性を理解し、強みを本人が自覚したうえで、学んでいく

✓すべての職員ですべての子どもを育てる

✓ありたい９年生の姿を共有し、学びのベクトルを揃える

教育委員会・町の支援

県費小33人中21人 町正職1 会計年度33 外部2 教職員総計90人

(1)佐久穂教育推進のための小中学校職員体制

○小中それぞれに、校長、教頭、養護教諭、事務職員（義務教育学校でないため）

○町費の会計年度任用職員(全33人)

- 小中一貫推進教員(兼務 中7名)
  小5、6年生も担当(英語1、理科1、数学3、体育2)
- 学習支援教員（小7名）
  (支援員でなく小学校免許証を所有（1年生は全クラス配置))
- 特別支援教育支援教員（中2名）
- 介助員（小2名）
- 相談室支援教員(兼務 2名)
- 養護教諭補助員(兼務 1名)
- ICT教育推進員(兼務:地域連携を兼ねる 1名)

・校用技師(兼務1名)
・図書館司書補（小1 中1名）
・事務補助員（兼務1名）
・ｱﾚﾙｷﾞｰ対応栄養士（1名）
・給食調理員（6名）
・ELT 2名(外部・兼務)

(2)安心・安全の学校づくりのためのサポート

① スクールバス(6台、冬期間は7台)
・小:バス6割　中:バス6割、自転車1割

② 教委・学校合同危機管理委員会
・新型コロナウィルス感染症対策
・自然災害対応
・学校配信メールの整備

(3)生涯学習課との連携による町の文化資源の教材化

(4)保健福祉課等との連携による児童・生徒、家庭支援

(5)ICTの充実等児童生徒教員のニーズにあった予算執行

小中学校を統合しているために集約的にヒトやモノを充てることができ、効率的な予算執行を実現

二つ目の柱

・英語教育

キーワード
～小学校１年生から
教科として英語を学ぶ～

- 文部科学省が指定する教育課程特定校として、小学校１年生から授業時間数を確保
- **ELT**（**ALT**）を町費で２名配置（派遣委託）し、**TT**での授業を実施
- ５・６年生は、中学の英語教員も乗り入れし**TT**で授業を担当
- 町内３保育園にも**ELT**を派遣
- イングリッシュキャンプを実施

三つ目の柱

・キャリア教育
（ふるさと学習）

キーワード
～佐久穂のひと、もの、ことに学ぶ～

以上の３つの柱により
「**わが町に根付く特色ある教育**」
を実現

佐久穂小学校・中学校の視察から見えてくるもの
（参加者の声）

- **研究テーマを小中揃えること**や**目指す9年生の姿を小中みんなで考える**ことは、施設分離型でも十分できると思うので参考としたい。
- **不登校の生徒を小中連携して大切にしている**ことは、すごく参考になった。
- 小学生と中学生が、**日常生活のどの場面で交流が生まれるのかを見据えて**、校舎配置がされていた。
- 教科担任制で**中学教員の負担が増えない**ように工夫されている点が勉強になった。
- 校舎中央では**自然に交流する場がある**という設計や利用の仕方は施設分離型の諏訪市でも応用できると思った。

佐久穂小学校・中学校の視察から見えてくるもの
（参加者の声）

- 小学校、中学校、それぞれの先生方がこの一貫校に誇りをもち、**目指す９年生の姿**に向かって一丸となっている空気を感じた。
- 異年齢・異学年とのかかわりが生み出す、**“化学変化”**が様々にあると感じた。きっとそれは、成果という形ですぐに出るものではなく、人格形成など「根っこ」の部分に影響を与えるのではないかと思う。
- 小学生は中学生の姿に憧れ、中学生は小学生を包み込み、また、手本になろうとする**相互作用が生まれる環境**が印象的であった。

視察全体を通して見えてくるもの
（参加者の声）

視察全体を通して見えてくるもの（参加者の声）

- **小中でベクトルをそろえていく**ことはとても大切なことだと思う。学校目標を揃えたら、次は目指す中学3年生の姿（つけたい力）を考えていきたい。
- **情報交換をしていく必要**を強く感じる。特に不登校傾向の子どもに対しての小中での情報交換を積極的に行っていきたい。小学校の不登校児童も含め、支援会議を中学校で行うことなども考えられる。
- 異年齢交流は大切だと改めて思ったが、施設分離型の場合、**交流の機会**は造り出さなければならない。その時、考える時間、準備する(打ち合わせ)時間が必要で、その時間を作り出すためにも、学校を越えた職員間の交流によりスムーズに連携していければよいと思う。

視察全体を通して見えてくるもの（参加者の声）

- 佐久穂小中のように校舎の真ん中で交流はできないが、児童・生徒会活動や授業研究などで**ICTを活用してリモートで繋がる**など、少しの工夫で様々なことができると思った。小中学校の関わりが自然になってくる環境をスタートさせたい。
- 「学級は担任の城」からの脱却として、**多くの価値観と出会わせる**学年担任制なども検討していければよいと思う。
- 諏訪学、すわっこ学習、ものづくり科等を含めた大きな枠組みで、系統性を持たせた基礎充実期、活用期、発展期等によるつけたい力を考える。地域に出て役に立つ経験をすることは、**ふるさとを大切に思う心を育み、自己有用感を高められる**と考える。